

E V E N T R E P O R T

分子研シンポジウム2016

担当教員 2016年度担当教員
総研大物理科学研究科構造分子科学専攻 准教授 田中 清尚

平成28年5月27日に岡崎コンファレンスセンター大会議室において分子研シンポジウム2016が開催されました。このシンポジウムは土曜日のオープンキャンパスに連動する企画として、平成19年から始まり今年が10回目になります。昨年に引き続き、シンポジウムを金曜日の午後、オープンキャンパスは土曜日全日開催という日程となりました。分子研シンポジウムでは、分子研や総研大にゆかりのある先生方を講師としてお招きしており、ご講演いただいた講師と講演題目は以下のとおりです（講演順に記載）。伊藤 孝寛先生（名古屋大学准教授）「材料の機能性と電子状態の関係：角度分解光電子分光によるフェルミオロジー」、小澤 岳昌先生（東京大学教授）「生体分子を観る・操作する光分析科学」、神谷 由紀子先生（名古屋大学准教授）「人

工核酸によるRNA干渉機構の理解と制御」、古川 貢先生（新潟大学准教授）「アドバンスドESRによる機能性メカニズムの解明」。参加登録者は所外41名で、当日は所内参加者を含めて多くの聴衆が集まりました。総研大への進学や共同研究を促すことを意図して、各講師の先生には分子研との関わりや接点について触れて頂きました。各講師のお話には随所で分子研や総研大への愛着が感じ取られ、我々にとっても大いに励まされるものでした。また講演会の後には大会議室においてシンポジウム参加者と所内の学生、研究者の交流を深めるための懇親会が行われました。今年は参加していただいたPIの先生方の簡単な自己紹介の時間を設け、講演していただいた先生を含めて参加者と教員が直接交流する貴重な機会となったと思います。



例年懇親会は職員会館で行われていましたが、講演会と同じ岡崎コンファレンスセンター内の中会議室で開催することで移動をスムーズにすることができました。また今年は懇親会のために所内の先生方からの寄付を募りご支援いただいたことで盛大な懇親会になりました。今回のシンポジウムを通じて参加者の皆さんには分子科学の多様性ととも、その基礎を支えている分子研の存在意義を感じ取って頂けたものと思います。お忙しい中、ご講演いただいた講師の先生方、そしてご協力いただきましたPIの先生方、スタッフの方々にこの場をお借りして厚くお礼申し上げます。

分子研オープンキャンパス2016

担当教員 2016年度担当教員
総研大物理科学研究科機能分子科学専攻 教授 飯野 亮太

2016年5月28日(土)、岡崎コンファレンスセンターにおいて、分子研オープンキャンパス2016が開催されました。本事業は、他大学の学部学生、大学院生および若手研究者らに分子研の研究環境や設備、大学院教育、研究者養成などの活動を知ってもらい、分子研や総研大への理解を深めてもらうことを目的としています。9時30分より、川合所長による分子研の概要説明、山本教授による総研大の概要説明が行われた後、9名の分子研PI（飯野、奥村、正岡、楳山、古賀、小林、田中、平等、

加藤（発表順、敬称略）による研究室紹介が行われました。昼食の後、13時からオープンキャンパスの概要説明を筆者が行い、16時までの間、明大寺・山手の両地区の各グループの研究室を自由に見学してもらいました。本年度の参加者は61名であり、その内訳は、学部学生42名、大学院生11名、大学教員6名、中学教諭1名、民間企業1名でした。昨年度の参加者は64名であり今年度はやや減少しましたが、筆者の研究室には15名を超える参加者が見学に来てく



れました。これは、研究室紹介を行った効果の現れだと考えられます。分子研PIの皆様には来年度以降も是非、研究室紹介に積極的にご協力頂ければ幸いです。最後に、本事業にご協力頂いた全ての関係者の皆様はこの場を借りて厚く御礼申し上げます。